

第1回 諮問検討小委員会 会議録

平成27年11月10日(火)

14:00~16:00

○出席者 公運審委員

山田 治子(東清)、青木 健(岩根)、古藤田 憲之(鎌足)、元木 榮(金田)

澤邊 賢司(岩根西)、鶴岡 俊之(桜井)、

事務局

原(清見台)、渡邊・星野・栗本(中央)、松本(八幡台)

○記録 栗本(中央)

1 挨拶

2 答申に向けてのスケジュール案

3 諮問事項の検討

「地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について」

(1)公民館をとりまく地域の現状と課題

(2)教育機関としての公民館の今日的役割

(3)これからの公民館事業に求められるもの

(4)充実した公民館活動を推進していくために

青木 参考資料に基づいて、公民館を取り巻く地域の現状と課題についてみなさんご意見を伺いたいと思います。

古藤田 資料について質問ですが1ページの表、横軸の年度は下まで続いているか。

星野 表とグラフの年度は、上下でつながっています。

今日の議事録を整理し、今後はそれに基づいて話を進めていくようなやり方でよろしいか。

青木 皆さんから意見を出し合っていないと先に進みません。いきなり参考資料を見てすぐには出てこないと思うのですが。

原 お一人ずつ自分の地域の課題や現状、期待することなど、2点くらい現状を挙げていただきたい。

元木 文化祭の件ですが、八幡台の公民館の地区は旧烏田の地域でよろしいでしょうか。

松本 八幡台は上烏田地区です。

元木 烏田という土地にあって、八幡台という位置づけだが、金田は地域住民、結構癖のある人が多い中、新しい住民とどのようにかかわっていくか、運営していくかが課題。公民館から指導していただけたらと思う。

鶴岡 1ページ目、老人クラブ、子ども会、数が減っている中で、唯一PTAの人数はあまり減っていない。これを見ると、PTAと公民館の関わりが大切。公民館の利用を増やすためにはPTAの存在は非常に大きい。

山田 現在は PTA 独自の公民館を利用するというのは大分減っている。美化作業などは先生方、PTA も参加者数は増えている。事業があつて、声をかけたら出てきてくださる。しかし、独自にやるような事業は大変なのかなと思う。老人クラブは出られる方は出られるが、老人クラブに入っている人も距離が遠いために公民館まで来れないという人も増えてきているのが現状。そこをどうするかは大きな課題。東清公民館は東清小学校があるので、小学生の出入りがあることはある。しかし、祇園小の生徒は利用しようと思つても、やはり距離の問題があるのではないかと感じている。

古藤田 資料を見て気になったことは市全体が高齢化しているということ。地域によっては若い人も増えているが、全体に高齢化。公民館は全体的に利用団体は増えている。これは高齢化と関連しているものなのか。定年退職者が増え利用が増えたのだろうか。地域で高齢の方が生活していくためには、公民館はなくてはならない存在になっている。データとしてあれば面白いと思う。高齢化で逆に公民館が活発化すればよい。もう一つ問題なのは、サークル活動で会員が固定化していること。定年退職で地域に戻ってきた人をどれだけうまく参加させていくかが今後の課題なのではないかという気がします。若年者については、仕事をしている人が参加するには土日をあてるしかない。他の地域、例えば他市のコミュニティーセンターなどではどうやって克服しているか。公民館の利用を拡大させるには、場所によって違うと思うが、例えば新住民の多いところは、比較的土日に使わせて欲しいというのが多いという気はする。ただ、鎌足地域について言えば土日は自分の家の周りの仕事が多く、公民館を利用しない人が多い。逆に定年退職して家に戻ってきた人で、公民館で活動したいという人もいるかもしれない。

澤邊 私が気がついたのは防災面です。例えば八幡台や大久保も含めほとんどの地域で防災組織を作っている。ないところの方が少ない。ないところも、何もやっていないのかというと、意外とまちづくり協議会などが主体となって自治会ごとに備品を蓄えたりして、それなりに頑張っているところもある。老人クラブ、子ども会についても数自体は激減している現状があるが、団体は減っていても、公民館で何かやりたいという人は結構いると思う。決して数字だけでマイナスになっているとは限らない。ポテンシャルはあると思う。PTA は変化なく活動続けている。つまり、公民館に保護者が来るようにするとよい。また PTA だけでなく、子どもも通学合宿など盛んにすれば人数が増える。

青木 岩根地区に関しては、高齢化も進んでいますが、サークルも新しいのができている。高齢者のサークルが減ったが、また新しいサークルもできてきて、現状は公民館を使って活動しているという団体が結構増えた。岩根地区は高齢化が進んでいる地域ではある。

星野 みなさんに関連した地域の話が出てきたが、全 16 館にした場合に、どうやってまとめていくか。課題は地域に共通するものと、個別にある課題と両方ある。それらの課題をうまくつなげながら文章化していくことになる。あまり資料に囚われることなく、普段の活動、文化祭の様子、住民会議など、ざっくりと公民館の現状を出していただきたい。

元木 各地区で、以前は子ども会、老人会があつたところは多いが、継続させるためには、町内からの補助金だけでなく、大きな組織のほうから補助金がでないのだろうか。例えば A 部落の老人会は、A 部落から集まったお金があるが、それ以外に大きな組織からの補助金などがあれば。

青木 岩根では町内会費があり、町内会連合から各団体に補助金を出している。

- 元木 もっと上のほうの組織から出ないのか。
- 星野 木老連の負担金を上部団体に払って、そこから団体ごとに会員数の構成の割合に応じていくらか補助金が出ている。ただ木老連に参加の有無に関わらず、老人会は減っている、補助金の有無は会員数の減少とは別の問題ではないだろうか。役員になる人が減っている、木老連の事業に関わるのがだんだん負担になってくる等の理由が大きい。
- 元木 老人会は役員をやる人がいない。今とは違ったやり方で組織をうまく維持する方法はないのだろうか。
- 澤邊 岩根西地区では、木老連に入っているのは江川あけぼの会と岩根4丁目若木会と二つの団体しかない。グランドゴルフなどスポーツ大会を木老連が主催している。木老連に入っていないと独自にやっているだけでは井の中の蛙になっている。本格的ではなくなってしまう。木老連に入って参加している人は、必死になっている。高齢者だからといっても、ある程度刺激が必要だと思う。木老連に入っていて、大会などに向けて練習すると活動が活発になる。団体は1回解体してしまうともう活動を再開するのは難しい。
- 星野 老人クラブは法律がある。
- 青木 活動が続かない理由には、役員の関係や、上に収める金額などもある。そういうものが積み重なってやめていく人が多くなる。
- 澤邊 子ども会も同じ状況です。市子連という子ども会連合会があって、お母さん方は共働きで忙しい、市子連に入っていると集会、会議で何回も呼ばれる。町内からの補助金だけで市子連とは縁を切って、大きい組織に入らないで、独立して活動するところもある。老人会と似た状況です。
- 青木 婦人会も同じです。岩根は婦人会はあるにはあるが、木婦連には参加していないという話を聞いたことがある。
- 古藤田 鎌足地区は子ども会とPTAの活動と重複するようなどころもあって、やめていく人もいる。その代わり地元の子ども会に対する補助金を自治会で出している。婦人会も鎌足地区では昔あったが、それも農協婦人部とかけもちしているようなところがあり、活動がなくなった。時代の背景もあると思う。老人クラブは、作ったときは老人クラブでよかったかもしれないが、ネーミングが入りにくい。昔の老人クラブは活動している人もいるが、もし自分が老人クラブに入るなら、新たに他の団体を作りたい。老人クラブを必ずしも固定化して続ければよいというわけでもないと思う。多様な団体があって良いと思う。
- 利用状況のデータの中でサークルの利用者数はどこに含まれるか。
- 渡邊 サークルは社会教育団体の項目に含まれる。
- 鶴岡 文化祭では、桜井の特色かもしれないが、発表部門で、特に若年層のサークルの方が、地元の方ではない人が多かった。ダンスや琴など知っている顔の人がいない。木更津市全体から来て、たまたま桜井の公民館を利用している。これは桜井の特色なのか。
- 青木 桜井は設備が良く、ホールもあるので来ているのかも知れない。結局設備のよいところに行ってしまう。
- 鶴岡 公民館を学区で区切っても、利用者は必ずしも学区の人ではない。それが良い悪いは別にしても、難しい問題だと思う。

- 渡邊 桜井は特徴的な地域。地元というと二中学区ではなく、桜井地区という感じの印象がある。文京と桜井は同じ学区にありながら全く違う雰囲気である。
- 鶴岡 出店は地元の人がやっている。発表を見たとき、ちょっとさびしいな、と思った。
- 古藤田 中央公民館もそうではないか。
- 渡邊 中央公民館はもともと成り立ちが社教センターとあって、木更津市全体を対象にしていた。現在では、地元の団体や小学校、中学校などと連携してボランティア等で参加してもらっている。駅から近いということもあって、サークルは全市から来ている。
- 青木 卓球サークルもたくさんありますよね。
- 星野 他の館のサークルと掛け持ちしている人も多くいる。
- 渡邊 PTA は人数が変わらない。若干サークル数は増えている。それは特徴的だといえる。
- 澤邊 富来田公民館は菊がかなり盛んである。そこに岩根東地区の方が顔を出して、品評会に参加している。活動が盛んなところに他の地域から参加する人もいる。そういうのも交流になって、技術のレベルアップには良い。
- 鶴岡 事業以外で、公民館のサークルの特色を生かして、地域外の人が交流するのは良い。19 ページ以降の地域とのつながりとサークル活動のつながりは分けて考えたほうが分かりやすいかもしれない。
- 山田 地域の老人クラブの中には地元で根を張って、人数が増えているところもある。しかし、公民館には来ないという人もいる。なぜ来ないのかは分からないが、週 2 回はグランドゴルフなどを行っている。ゲートボールは高齢者のイジメにつながるということで、今はグランドゴルフの活動が増えている。地元では活発に活動していても、その活動が公民館の活動に反映されるかどうかは心配。子ども会は、大人たちの考えで運営されていると感じることがある。子どもたちがしたいことを子ども会がやっているのか、大人の準備の難しさなどを中心にやっているのかな、と感じることがある。子ども会はなかなか公民館と関わる機会がないのではないかと思う。美化活動にしても、公民館が主体となるものについて声かけはしているでしょうけれど、その年の責任者の方によって参加の有無が変わってしまう。公民館に関わる老人クラブの方は植木の剪定といった美化活動など、本当に熱心にして下さる方もいる。地域の老人クラブに参加しても、公民館の活動には参加しないのは何でかな、と思う。畑沢公民館の文化祭で、模擬店で地元の PTA の方が半分以上やっていた。あれだけ多くの PTA が参加できるのだったら、それを何か他の活動につなげられればよいと思う。
- 古藤田 アンケート調査についてはどうか。
- 星野 アンケートは討論の材料にいただければと思う。
- 松本 若い人はもっと気軽に集まれるような場所が欲しい、と言う意見が多い。ロビーなどを気軽に利用したい等。3 日前までに利用申請出すというのが使いにくく、来たときにすぐ使えたらという意見が若い人から出ている。行政の窓口にもなるということで、生活全般で困ったことがある場合には相談に乗ってほしい、という声もある。40~50 代の中には家庭教育学級などで、子育ての初期から参加し、公民館の利用者として定着している。地域でリーダーになっているような人もいる。地区の区長や補導員をやっている人もいて、地域づくりをしていく中で、重要な世代であると感じる。ものづくりをしているサークルより、健康増進など、生活習慣病の

予防体操など、みんなと一緒に同じ体操をして、少しずつ健康増進を図っているというような人が増えている。

山田 視察で気になったのは、二階に複数部屋がある公民館がある。高齢化で一階でないといけないというサークルも多いのではないかと。

松本 多くなっています。膝が悪くなり、イスと机がある部屋を希望する方も非常に増えている。立ち上がるのが難しい方とか、長時間座るのが難しい方などが多い。

山田 申込みの段階で一階の希望が重なることもあるのでは。

松本 重なってしまった場合には、部屋が移動できるか相談したり、人数などを考慮し調整することもある。そういう場面は多くなっている。

山田 これは今までにない悩みであると思います。我々も階段の上り下りが辛いと感じることもある。サークルの利用でも今後もっと大変になってくるのではないかと。

古藤田 世代によって公民館に対するニーズが違う。その辺に触れられればよい。若い人は気軽に集まれるようなロビーなどのようなところが欲しい。高齢者は二階、三階が辛いなど、施設的な問題もある。世代、地域によっての違い、それぞれ課題があり、それをどう踏まえるか。

星野 地域の課題をこちらでもいくつかまとめた。

青木 地域の現状と課題を整理し、次回は今回話し合ったものを文章にさせていただくということによいか。

渡邊 今日(1)のところをだいたい話し合いました。地域の現状が把握できてきた段階で、公民館とするとどのような働きかけができるのか、もうちょっと話し合われても良いのかなと思う。

原 今回のものを踏まえ、次回、(2)教育機関としての今日的役割について話し合っていく。公民館をどうしたいか、ということを出して欲しい。日頃の地域や公民館活動の中でどんな意見があるのか、ということをお願いしたい。

青木 施設の問題や駐車場の問題などもある。岩根公民館だと、駐車場がないとか、集会室が全部二階で階段を昇っていかなくてはいけないとか、気軽に立ち寄れるロビーがないなど。

澤邊 施設の問題に関連して、公民館の耐震補強などの問題もある。公民館がこれから長く使われるために、安心して使うために、耐震補強をしているところや建て替えが必要など、修繕が必要だとかを各公民館ごとに知りたい。施設がしっかりしていれば、人を呼んでも大丈夫だと思う。施設の面で遅れているところなど把握したい。

原 昭和 56 年に建築基準法が変わり、耐震をしなければいけない施設がある。

澤邊 小学生やお子様をもった保護者の方が安心して公民館にいけるとということが大切。小学校、中学校は耐震がしっかりしていても、公民館が危ないという認識になってはいけない。

古藤田 公民館は避難場所にもなっていますよね。

星野 施設などに関連することは(4)に該当するので、最終的にそちらで検討していただきたい。

山田 公民館は避難所になっているが、いざ避難するとなった場合、例えば寝具などは備わっているのかなど、不安の声を聞いたことがある。普段公民館を利用していても、有事の際のことは目につかないことが多い。その受け入れ態勢がどの程度なのかということも気になる。

原 そうすると、公民館の今日的役割について、地域の防災を担う施設としての公民館の機能を高めなければならない、ということになる。

古藤田 まちづくり協議会は全公民館でやる予定なのか。

渡邊 従来から3箇所、加えて三つくらい増やすという話になっている。教育機関として防災とどう関わるかも課題である。

古藤田 所管課が別にあっても、直接住民と関わるのは公民館である。公民館は、行政と住民をつなぐ場でもあると思う。

青木 岩根では防災講座を4年くらいやっている。

星野 子ども会や青少年相談員は以前は独自に事業をやっていたが、今は少なくなってきている。公民館が中心となって行う事業に協力するという活動が増えているのではないか。

山田 青少年相談員は、夜間パトロールなどにも参加していただいていますよね。

星野 時間も過ぎましたので、今日の内容を整理して、次回に提示します。今回は、(2)教育機関としての公民館の今日的役割、(3)これからの公民館事業に求められるものについて地域づくりという視点で検討していただきます。(2)(3)が今回の諮問の中の一番のメインとなる項目になりますので、今回の内容を次回につなげていただければと思います。

青木 また次回の定例会では各公民館の委員が出席するので、各地域の現状と課題を聞けるとと思います。今日はありがとうございました。

4 次回の進め方等について(役割分担など)

- ・第1回検討内容の整理 → (1)話し合いの内容を整理し、次回提示
- ・次回の検討事項(1) → (2)(3)について検討
- ・公運審第3回定例会の進め方 → 委員会に引き続き審議する

5 その他

特になし